

平成22年度 学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立須恵高等学校長 印

36

学校経営方針				評価	
学校教育目標	人間尊重の精神を基調として、自ら学び、自ら鍛え、心身ともに逞しく、国際感覚を備えた豊かな人間性を有し、平和で民主的な国家・社会の発展に寄与できる人間を育成する。 ⇒ 本校の教育の基礎・基本である「五省」を土台に、高い志を持ち、確かな学力と豊かな人間性を身に付けた生徒を育成するとともに、特色のある学校文化を創造する。				
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標			
「五省」を実践し、意欲的に活動できる生徒が、多数育ってきた。創立30周年を控え、ハード・ソフト面ともに教育環境は整ってきている。今後、文武両道、学力の向上、部活動の活性化に更なる努力が必要である。	1 高い志と心豊かな生徒を育成するため、生徒の自主性や自己管理能力を育成し、心の教育を重視した学校行事の充実を図る。	(1)「五省」を大切に、生徒の自己管理による生徒会活動や学校行事を促進し、自信や誇り、帰属意識を高める。	(2) 講演会や芸術鑑賞会、体験活動、人権教育など、心の教育を大切に学校行事を充実させる。		
	2 意欲的に挑戦する生徒を育成するため、文武両道、鍛えて伸ばす活気あふれる教育活動の工夫・改善を行う。	(1) 授業規律の確保や自主的学習習慣の確立、進路目標の早期決定など、生徒の自主・自律の意識を高める。	(2) 学校行事や特別活動の改善、部活動の活性化など、生徒の個性を生かす意欲を高める活動を促進する。		
	3 地域に期待される学校を構築するため、地域との連携を密にするとともに積極的な広報活動に努める。	(1) 小学生との交流会・出前授業・地域行事への参加等、地域との連携強化を図る。	(2) 学校説明会や公開授業、広報紙やHPIによる情報提供等、積極的な広報活動に努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題	
学 事 企 画 部	学習指導	授業規律の確立と授業内容の充実	チャイムと同時の始業、授業前後の挨拶を徹底する。 積極的な授業態度など意欲的に学習に取り組む姿勢を育成する。 予習・課題等の指導を通じ、授業に臨む姿勢を育成する。 互いの授業を参観することにより、授業方法の工夫・改善を行う。 シラバスの改善と活用方法の検討を行う。 授業改善アンケートを活用した授業内容等の改善と活用方法の検討を行う。 考查内容の充実と平均点の適正化を図る。		
		学習習慣の定着 (自主学習時間2時間以上) (追調査対象・各学年10名以内)	各教科による学習時間定着に向けた取組を検討する。 予習、課題の指導の徹底等、家庭学習と授業との連動を図る。 学習時間調査による学習習慣の把握と改善に向けた指導を行う。 教務自学セミナーを実施する。		
		出席状況の把握と改善 (年間出席率98%以上) (退学・転学者数計8名以内)	入室許可証を用いた遅刻等の生徒の状況把握と指導を行う。 家庭と連携した基本的生活習慣の確立を図る。 遅刻欠席者指導、家庭訪問、個人面談など学年と連携した取組を行う。		
		教育課程の検討	生徒の実態に即したカリキュラムの作成と検討を行う。		
		校内新旧LANの管理に努める。	先生方へのLANの設定と管理を行う。 ウイルスソフトの更新と管理を行う。		
	情報管理	生徒の個人情報の管理を徹底する。	サーバーへのアクセスをパスワード化し、個人情報を管理する。		
		インターネットの有効利用を推進する。	進路検索や学習検索にインターネットの利用を推進する。 著作権や個人情報の管理についての指導を行っていく。 インターネットのセキュリティ問題について生徒職員の意識を高める。		
		情報機器の管理を行う。	貸出使用簿を作成して、情報機器の管理を行う。 可搬型PCや個人配布PCの管理を行う。		
	研 修	教科指導力の向上のための授業改善	2学期に授業参観週間、研究授業週間を実施し、授業改善を推進する。 研究授業担当者や参観者との共通理解のため、事前協議会を実施する。 保護者等に授業を公開し、多面的に授業評価を行う。		
		校内研修・校外研修の推進	職員から広くテーマを求め、ニーズに即した校内研修を実施する。 特別支援教育に関する職員研修を企画し、実施する。 教育センター等の研修への参加を積極的に促す。		
人権教育の充実 (年間3回の人権教育HR) (年間4回以上の職員研修会)		人権教育HRの内容の検討を深め、工夫・改善に向けての情報整理を行う。 全ての教育活動を通して、人権教育に対する生徒の意識の高揚を図る。 班会議、学年会議等を含めた職員研修を充実させる。			
企画管理	各種行事等の早期企画・立案・運営	年間行事予定を早めに立案、3ヶ月毎に細部を調整し、提示する。 各儀式の実施要項は2週間前に提示する。 防災避難訓練の事前指導を十分行い、目標時間内に避難を完了させる。 学校運営が効率よくできるよう、学校要覧を早めに作成する。			

生徒育成部	渉外広報	広報資料の充実	須恵高ニュースを適時発行する。 学校案内の内容を充実させる。 学校紹介ポスターを作成し、配付する。					
		中学校、保護者、地域への情報提供	中学生体験入学に300名以上参加できるよう内容の充実を図る。 中学校訪問を年4回行う。 中学生、保護者、地域の方々へ本校訪問を積極的に呼びかける。 進路説明会、出前授業の要望を全て受け入れる。					
			PTA・同窓会・後援会との連携	PTA総会と進路講演会等の同時開催を行い、出席率向上を目指す。 PTA各委員会行事の企画を支援する。 PTAの文化祭参加の支援する。				
				小学生との交流会を通じた地域との連携	小学生との交流会を活発化する。			
		HPの行事毎の更新	行事毎に写真や文章の更新を行う。 地域や中学生などの要望に応じてHPの改善を行う。					
		生徒指導	挨拶、時間厳守、適正な言葉遣い、マナーの向上などの指導を通して基本的な生活習慣を確立する。	重点目標を設定し、共通理解を図り指導にあたる。 風紀検査を実施する。 朝の門立ち指導、校内巡視、下校指導を実施する。 HR活動において校則や規範意識について考える機会を設定し、日頃より意識させる。 非行防止教室を実施する。 校則検討委員会において校則の見直しを検討する。 制服検討委員会を設置し、制服の見直しを検討する。				
	部活動入部率、70%以上、そのうち文化部加入率20%以上を目標とする。			新入生の部活動見学及び説明会を実施する。 顧問会議を学期に2回以上開催し、共通理解と部活動間の連携を図る。 部長会を必要に応じて実施する。 部活動生徒の集いを学期に2回実施し、生徒の意識の向上を図る。 地域行事への参加やボランティア活動を各部活動毎に計画し、実施する。 部活動の時間を確保する。 部の新設及び改廃を検討する。				
				他校との交流や広報活動を積極的に行い、生徒会活動を活性化させ、生徒達の中で学校をよりよくする動きに繋げる。	各種専門委員会を定期的に開催し、活性化を図る。 生徒会執行部の定例会議を実施する。 生徒会宿泊研修を充実する。 他校の生徒会と交流を行う。			
					安全指導を通して社会規範の理解と安全・防犯意識の高揚を図る。	登下校指導を実施する。 通学路の点検及び周知徹底を行う。 早急な不審者等の情報提供を行う。 防犯ベルの貸出を行う。 自転車安全点検を年2回実施する。 生徒による安全啓発活動を実施する。		
	セミナーハウスを活用した生徒研修を実施し、自主・自律・協調等の精神の育成を図る。		2年生は1泊2日の学級合宿を実施する。 1年生は2泊3日の学級合宿を実施する。 教職員へのガイダンスや指導生徒のオリエンテーションを充実する。					
	保健・美化		自主的・自発的な清掃活動	生徒指導統一HRを通じたゴミの分別及び廃棄要領の周知徹底を図る。 ポスター等の掲示及び美化委員の清掃後の巡回、美化コンクールを実施する。 生徒指導統一HRを通じて古紙回収方法についての確認を行う。 美化委員会を通じて古紙回収リサイクル状況についての継続的な報告を行う。 古紙回収やリサイクルのポスター等の募集や掲示など、環境保護の啓発を図る。				
				生徒の心身の健康・安全に関わる情報提供と組織的な連携の強化	健康診断結果について事後指導を実施する。 各種健康診断の結果を受けて、教育活動上必要な情報を職員へ提供する。 クラス・学年別の保健室利用者状況を毎月、年間計12回呈示する。 保健室来室記録簿の職員室持ち上がり職員への閲覧呼びかけを行う。 心身の健康安全に関する内容を記載した保健だよりを年間計10回発行する。 校外研修活動への積極的な参加、研修内容の全校生徒への還元を行う。			
					個人面談時間を確保し、学期に1回、年間3回の個人面談月間を実施する。 年間10回のスクールカウンセリングを実施する。			
	スクールカウンセリングや個人面談等		教	悩み相談箱の管理及び相談があった場合の対応を行う。				

進路教育部	進路指導	進路指導の充実と進路実績の向上	校内集中学習会等の校内における取組の積極的な運営支援を行う。 長期休業中課外の効果の実施方法を検討する。 小論文指導・模試・添削等、各学年で計画的に実施する。				
		進路情報提供の充実	進路新聞の発行、各クラス生徒・保護者・教員へ進路情報を提供する。 コンピュータの活用と、その活用法の職員研修会を実施する。 教員による予備校等の授業見学を実施する。				
		進路意識の高揚	模試結果の活用方法を工夫する。 進路カウンセリングや上級学校関係者による講演を実施する。 大学や専門学校に関する入試情報や入試問題の徹底研究を行う。				
	図書	身近な図書館を目指し、図書館利用者数と本の貸し出し数の増加	図書館内の書架の配置や掲示物を工夫し、開放的な雰囲気を作る。 各クラスにおいて図書委員による呼びかけを積極的に行う。 朝読書のための本の貸し出しを推進する。				
		広報活動の活性化	館報「パピルス」を年5回発行する。 掲示板「クローバー」の年4回更新を実施する。				
		効果的な選書の実施	生徒による問屋訪問を年3回実施する。 興味関心の高い本・看護コースや小論文対策用図書の整備を行う。				
		図書委員会活動の活性化	定期的な委員会の開催。朝読書指導を強化。				
読書指導・利用マナーの指導		文化祭への積極的参加。図書部独自の催しの企画・運営。 朝読書の習慣化。利用マナーの向上を図る。					
学年部	第一学年	基本的生活習慣の確立	あらゆる機会を通じて時間の厳守や挨拶、適切な言葉遣いを励行させる。 欠席者・遅刻者に対する指導を定期考査ごとに行う。 身だしなみに関する指導を、学年独自に継続して行う。				
		学習習慣の確立と進路意識の高揚	清掃の徹底などにより学習環境を整えるとともに、授業規律を維持する。 教科担当だけでなく、担任等も協力し課題提出の徹底を図る。 予習や小テスト等への取り組みが不十分な生徒に対する指導を徹底する。 職業に関する情報などを提供し、進路について考えるきっかけを与える。 学年集会等を通じて社会の状況を認識させる。				
		良好な人間関係の構築	学校行事や部活動への積極的な参加を促し、入部率70%を目指す。 学年集会や面談、昼休みの巡回等を通じて他者を尊重する姿勢を育成する。				
		職員間の連携強化	担任会や学年会を通じて共通理解を深める。 担任間、教科担当者・担任間の情報交換を日常的に行う。				
	第二学年	基本的生活習慣の確立とリーダーの育成	5分前行動、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を徹底する。 年間出席皆勤者140名以上を目指す。 朝課外出席率97%以上を目指す。 リーダーシップ育成のため、学校行事等における主体的な運営を推進する。				
		進路意識の高揚	アカデミー体験講座(大学体験)の事前事後指導を工夫する。 土曜セミナー、集中学習会の充実及びACEテストを実施する。 多種多様な受験に対応するため、小論文指導の体制づくりと計画的な実施を行う。				
		学習意欲の向上及び授業規律の確立	授業開始前の教材準備、チャイム席、居眠り厳禁等、授業規律を維持する。 課題調整、提出点検の工夫により、家庭学習課題の提出率を100%にする。 職員間の連携を強化し、持ち帰り指導の徹底を図る。				
	第三学年	基本的生活習慣および規範意識の確立	欠席・遅刻・怠学の状況や原因を随時把握し、家庭との連携を密接に行う。 欠席者・遅刻者指導を定期的に行う。 5分前行動、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等についての指導を徹底する。				
		学習習慣の確立	予習を中心とした家庭学習の習慣を定着させる指導を徹底する。 学年全体で課題提出を徹底する。 自学室や教室の環境を整備し、放課後の自学を奨励し学習を習慣化させる。				
		進路意識の高揚と学習意欲の喚起	進路説明会・講演会等を計画的に行い、進路について考える機会を設ける。 各クラスで個人面談を行うとともに、クラスの枠を超えた面談体制を継続する。 総合学習の時間を中心に、進路別の個別指導を計画的に行う。 生徒の進路に応じ、適切な時期に校内学習会を実施する。				
自主性・リーダーシップの育成		生徒の自主性やリーダーシップが発揮できる学年行事を実施する。 積極的に行事に取り組む姿勢を育てる。					